

(様式2)

令和 2 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570600435		
法人名	社会福祉法人 御幸会		
事業所名	グループホームしばた		
所在地	新潟県新発田市下中山246番地1		
自己評価作成日	令和3年2月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会外部評価機関「あいエイド新潟」□		
所在地	新潟市中央区上所2-2-2 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	令和3年3月30日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然の中、四季を身近に感じながら家庭的な環境の下、それぞれが自信を持ちながら共同で生活している所を見て頂きたい。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

加治川の勇壮な流れを見ながら沿道をかかなり進むと、高台に特別養護老人ホームの建物が見える。自然豊かな場所に立地し、一望できる里山の景色は四季折々の表情を見せてくれる。この季節の移り変わりを感じながら、利用者はのんびり、ゆったりとした暮らしを送っている。特別養護老人ホームの中の一事業所としてグループホームを開設し、20年が経過したところである。地域に根差した病院が経営をしており、まさに医療、福祉の両面で中核的な役割を担っている。グループホームは開設時から変わらず定員6名の小規模で運営しており、小規模ならではのきめ細かな、行き届いたケアが行われている。また、特別養護老人ホームと併設しているメリットとして、同じ建物の中で不自由なく最期まで過ごすことが出来る体制が整っている。2019年度、長年勤めてきた前管理者から現在の管理者への交代があり、スタッフも多数が一新し、変革期を迎えているところである。管理者の誠実な人柄によりスタッフからの信頼は厚く、ワンチームでの運営体制が進んでいるところである。コロナ禍によりあらゆる試みが中止や延期となる中、今こそ事業所理念である「のんびり、ゆったり、自分らしく」過ごせるグループホームを目指して、利用者一人ひとりに向き合っている。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームが地域の一家族であるということを常に思いながら、ご利用様が「のんびり、ゆったり」の気持ちを持ち職員全体が共有し実践している。	職員会議の中で理念について振り返る機会が持たれている。数年前に開設当初の理念を見直し、現在のわかりやすい理念をつくった。事業所の入り口には習字の得意な利用者が書いた理念が掲示されている。管理者を中心に、理念を意識したケアの提供を心掛けている。	理念は事業所の礎となり運営の方向性を示しているものである。定期的に話し合いや振り返りを行ない、実践に繋がられているかどうかを確認することが求められる。これを繰り返し行なうことで、職員間での周知、共有を行なっていただくことを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年から新型コロナウイルスが流行しており、地域の行事などはほとんど行われていなかったが、地域のお菓子工房や喫茶店よりおやつを購入したり、野菜のおすそ分けを頂いたり交流している。	自治会に加入し、地域の情報の入手や催事への参加を利用者と共に行ってきた。また、近所の住民から農作物の差し入れをいただくこともある。近くの洋菓子店、喫茶店には、行事、外出活動と絡めて定期的に出掛けていたが、コロナ禍により全て縮小している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日常的に地域の方々との交流を通じて自然な形で認知症への理解を得て頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、併設の特養地域密着型と合同で実施しており取り組みについて報告し、意見交換を行いサービス向上に努めている。今年度は新型コロナウイルスにて書面での開催としている。	利用者、家族、区長、民生委員、介護相談員、地域包括支援センター職員というメンバーで会議が開催されている。コロナ禍である現在は書面で報告および意見のやり取りを行なっている。利用者本人と家族は会議の都度、参加できる方を募り、1年間で全員が参加できるよう工夫している。会議の中で地区の体操教室の情報を得て、体操のDVDを借りたり、実際に参加したこともあった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員が訪問した際に日頃の暮らしぶりなどを報告したり、介護保険区分変更などで市の窓口に出向き状況を伝えている。	市役所の介護保険課の担当者とは顔が見える関係にある。また、コロナ禍以前は3ヶ月に1回、介護相談員が事業所を訪れ利用者の声を傾聴し報告を行っていた。市の主催する認知症カフェにも利用者と共に参加していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について年に2回勉強会を開催し、理解を深めている。日中玄関は施錠せず寄り添いながら自由に過ごして頂けるよう努めている。	「身体拘束虐待防止委員会」が中心となり、身体拘束のないケアに努めている。月に1回は実際に起きた事故やアクシデントについて検証している。転倒防止のためセンサーマットを使用しているが、必要性については常に話し合い、可能な限り機器に頼らないケアを目指している。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の事例を基にした法律も含めて勉強会を行っている。日々の業務の中で自らの行為が虐待にあたるかあたらないかチェックしながら虐待防止に努めている。	「身体拘束虐待防止委員会」が中心となり、虐待防止に努めている。管理者は職員の言葉の強弱や指示的な表現に対して個別に指導を行ない、利用者への言葉掛けが常に優しく、受け身であるように徹底している。法人で年に1回、ストレスチェックが行われ、職員のストレスにも配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を行い理解を深めている。ご家族様にも必要に応じて相談し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や解除の際はわかり易く説明し、不安や疑問に思う事には具体的に丁寧な説明を行い、理解し納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族通信や、面会時電話での連絡時などに様子をお伝えしている。その際に意見や要望をお聞きし運営に反映している。	利用者からの意見や要望は、出来るだけ日常生活の中から聴き取りができるように取り組んでいる。意思表示の難しい方には、その方の立場になって寄り添い、思いを推察している。家族からは来訪時に、どんな些細なことでも良いので意見を頂きたいことを伝え、聴き取りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ミーティングを行い、意見や提案を話し合っている。日頃からも意見をだし検討しながらより良い運営に繋げている。	毎月の職員会議にはグループホームの全職員が出席している。管理者は職員が順番に一人ずつ意見を発言できるように進行し、全員の意見を聴いている。職員からの意見は、業務の流れの見直し、効率化につながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の業務に関する悩みやストレスに気を配り、相談しやすい環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が内部、外部研修などを受ける事ができるよう配慮している。ミーティング等で伝達し、情報を共有している。勉強会等で職員の知識を深められるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症カフェや外部研修等に参加し情報交換を行ったり、ネットワーク作りや様々な活動を通じてサービス向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握し、ご本人様の想いや不安、希望等を傾聴し信頼関係を築くことができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や要望等についてお聞きし、話し合いながらお互いに信頼関係を築きながら今後のサービスに繋げるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族様の想いなどの状況を十分に把握し、必要な支援が的確に行える様努めている。また、場合によっては他の事業所サービスに繋げるなどの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事などご本人様ができることを、職員と一緒にコミュニケーションを取りながら行い家族的な関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族通信や面会時、電話での報告などで日々の出来事や気付いたことを報告している。ご家族様と情報を共有し、共にご利用者様を支えていく関係を築いている。	利用者の日々の暮らしぶりについてはお便りの送付や電話で伝え、利用者の思いに添うように家族からも協力が得られている。外出自粛以前は、外出や自宅での外泊も利用者の希望により家族に対応していただいた。生け花が趣味の利用者には入居後も継続して楽しめるように、家族が定期的に花を送ってくださっていた事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々のゆかりの場所や馴染みの場所に外出したり、馴染みの人などとの関係が継続できるように努めている。	コロナ禍前は家族の面会のほか、親戚や友人が来訪する姿も見られていた。面会簿を確認し、利用者との関係が不明な方には失礼のない範囲で関係を確認し情報として残していた。利用者が「～に会いたい」と発した言葉を大切に、面会に来ていただけるようお願いしたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中で、食事やお茶などご利用者様同士が楽しく会話に参加できるように一緒にコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供が終了した後もホームでの生活の様子や環境、支援内容等の情報交換を行い継続した支援を行うよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や表情、行動などからご本人様一人ひとりの想いや希望を把握できるように努めている。	センター方式のシートを活用してアセスメントすることで利用者一人ひとりの思いや希望を把握している。意思表示の難しい利用者には、表情の変化、ちょっとした素振りや行動から意向を推察している。また、日常生活の普段の何気ない会話の中から聴き出せるように努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様からこれまでの生活歴や過ごし方などをお聞きし、ご本人様への理解に繋げるように努めている。日常会話からも新たな情報を得るように努めている。	入居前の関係者や本人、家族からこれまでの暮らしの経過を聴きセンター方式のアセスメントシートにまとめている。入居後に知り得た新たな情報については随時追記していき、定期的に更新している。把握した情報を元に個別のケアに繋げている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や生活リズムを把握し、その方のできることに注目しながら現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様から意見や、要望をお聞きし職員同士で話し合い、現状に合った介護計画を作成するように努めている。	介護計画の更新時には全職員が参加するカンファレンスが行われ、該当する利用者に参加してもらうほか、コロナ禍以前は可能であれば家族の参加もお願いしていた。毎月、モニタリングを実施するほか、毎日のケアプランチェックも行ない達成状況の確認を行なっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルに身体状況や暮らしの様子などを記録し情報を共有している。その記録を基にして介護計画の見直しや評価を実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々変化する状況に合わせて、職員の勤務体制など、その時々々のニーズに合わせて柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお菓子工房や喫茶店等でおやつを購入したり地域の方から野菜を頂いた際にそれを利用し食事を作ったり漬物を作ったりなど支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力病院やご本人様のかかりつけ医に受診できるように支援している。状態や結果などもご家族様に報告している。	経営母体である病院が事業所の協力病院であるため、ほとんどの利用者が希望してかかりつけ医を変更している。月に2回の受診は職員が対応しているほか、夜間や緊急時の指示や受け入れはスムーズである。病院との情報のやり取りは、電話や手紙、FAXのほか、看護師、医師から直接連絡が入ることもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診や日常における状態の変化などを協力病院に連絡、指示等を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際に、ご家族様との情報交換により回復状態等を把握し、退院に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に事業所が対応できる最大限のケアを説明し、重度化した際には協力病院との連携及びご家族様と十分に話し合いを行うよう努めている。	事業所では看取りまでは行わない方針であり、重度化やターミナルケアの状況に至る前に関係者との話し合いを繰り返し方針を共有している。ほとんどの場合は併設する特別養護老人ホームへ移行しており、暮らしてきた環境が変わらない中で不安なく、スムーズな住み替えが行われている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の個々の状態を把握し、急変や事故発生時の対応等の勉強会を開催し事故防止に努めている。	緊急時の連絡体制が整っており、急変や事故発生時、また夜間でも落ち着いて対応が出来る。心肺蘇生法、転倒時の怪我、感染症対応、嘔吐の処理方法などの研修を行ない、実践力向上を図っている。	あらゆる事象についての対応方法をフローチャートにまとめる準備に取り組んでいるところである。そのマニュアルを元に、全ての職員が不安なく業務にあたるよう、勉強会やシミュレーションを通して繰り返し訓練することで実践力を高めていただくことを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の特養と連携をして訓練を行うことで総合的な訓練方法を身につけるよう努めている。	年に2回、併設する特別養護老人ホームと合同で火災想定避難訓練を実施している。運営推進会議から地域の防災訓練の情報を入手し、利用者と共に参加したこともあった。地域との協力体制についてはコロナ禍の影響により整備が進められていない状況である。	昨今の自然災害の発生状況と被害の甚大さを鑑み、マニュアルの整備と合わせて想定訓練の実施を望みたい。地域の避難所に指定されているとのことであり、受け入れ時の対応についても検討するとともに、地域との協力体制についても引き続き整備を進めていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの人格や性格を把握し、干渉や自尊心を損ねないような声掛けや対応に努めている。	管理者は、利用者に対する職員の言葉掛けが指示的にならないように、常に注意している。利用者意見を求める時は自分で選んで決めてもらえるように配慮している。プライバシーについては、居室で過ごしている時に監視するような雰囲気になったり過度な干渉をすることのないよう心掛けている。職員会議の中で定期的に接遇に関する勉強会も行なっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、ご利用者様個人に合った声掛けや自己決定、意思決定ができるように常にこころがけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様個々の生活ペースを大切に、安心して生活ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活環境の中で、自分らしい身だしなみや理美容などを行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様個々の嗜好に合ったものを提供したり、職員と一緒に食事を作ったり片づけをしたり等食事を楽しめるよう支援している。	特別養護老人ホームの管理栄養士が作った献立に添って、用意された食材で調理を行なっている。献立表には料理や食材に関するコメントが掲載されており、食事の際の話題づくりに利用している。利用者の嗜好に応じて料理のメニューを変更することもある。食事作りから盛り付け、後片付けまで利用者の出来ることを手伝っていただきながら楽しい食事場面となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のご利用者様の状態に応じた食べやすい食事形態になるよう努めている。摂取量の低下防止や栄養バランスを考えた食事になる様に支援している。食事以外でも水分補給を行い、ご利用者様の好きな物を選んで頂き水分を摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様一人ひとりの状態に合わせて職員の声かけや介助にて食後の口腔ケアや洗口液による清潔維持に努めている。夜間は義歯の洗浄消毒を行い疾病防止に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様個々の状態や排泄時の行動パターンを把握し気持ち良く生活できるように努めている。	利用者個々の排泄パターンを把握し適切な排泄方法で援助している。排泄の自立に向けて常に検討しており、今までにおむつ着用からリハビリパンツに改善できた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ご利用者様の排泄状態を職員間で共有し、便秘気味の場合は食事内容や水分の摂取量等の見直しをしたり、運動など行い自然排便ができるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前の体調や入浴時間を考えて安全に気持ち良く入浴ができるよう、常にこころがけている。	週に2回以上は入浴ができるように調整している。入浴時間も午後3時から夕方にかけて実施することで、できるだけ家庭での入浴時間に近づけるように配慮している。入浴剤の使用、個々の希望に応じた湯加減、施設内のBGMも合わせて楽しい入浴が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様個々の生活パターンや表情、行動を把握し適切な休息や睡眠を促して毎日安心して生活出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様個々の処方箋は職員が管理し、効果や副作用を共有し理解し、頓用薬は服用すべきか相談しながら支援をしている。服薬時は確実に服薬できたかどうかを確認した上で状態を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様がができることとできないことを把握し、裁縫や書道等気分転換ができるように支援している。家事等のお手伝いなどでは感謝の声かけを伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の喫茶店や外食、外出支援を月に1回は行っていたが、現在は新型コロナウイルスのため外出支援が行えていない。	コロナ禍により以前のような外出を控えているため事業所の中での生活が充実するように努めている。それでも建物周りを散歩したり日光浴をしたり、目の前にある神社を参拝したり、外に出る支援は継続して行なっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様より現金をお預かりし、事業所で管理している。買い物等での代金の支払いはご自身で支払って頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	友人の方には葉書や電話でやり取りができるように支援をしている。ご家族様には家族通信を発行し様子をお知らせしたり、定期的に電話でお知らせをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけを行っている。季節に変化を感じられるよう工夫し、ご利用者様が居心地がよく快適に過ごして頂けるように支援している。	フロアは大きな窓で囲まれ、外の景色や光の採光も抜群である。室内の湿度には気を配っており、乾燥しないように定期的に濡れタオルを掛けて調整している。利用者の食席の配置では、耳の遠い方が孤立しないように、会話の中心となる場所に座れるような配慮も行なっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様がお互いに、気軽に会話が出来よう環境を作り、テーブルに行事や外出時の写真を貼り話題作りに繋がるよう支援をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご利用者様の馴染みの物や写真などを置き、居心地の良い空間を安心して過ごせる様工夫をしている。	居室担当職員が中心となり、本人、家族の希望を聴きながら居室作りが行われている。季節変わりの衣替えも職員が行ない、足りない物を家族に持参してもらっている。居室にはそれぞれの利用者の馴染みの物が持ち込まれており、自宅で見つかった若いころの写真をフレームに入れて飾る等、居心地よく過ごせるように工夫が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態を把握し、自立し安心安全にご自身のできることを活かした生活ができるよう工夫に努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				